

資料2

対象規格 JIS G 1228-3（鉄及び鋼－窒素定量方法－第3部：不活性ガス融解－熱伝導度法）

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2023/4/13	1	東理大	田中	附属書JA	14 d)欄	ed	表7 注記の数値と異なるがよいです？	0.000 8 %以上0.42 %以下 → 0.000 9 %以上0.417 %以下	原案のまま	許容差を規定している範囲:0.000 8 %以上0.42 % 以下 共同実験を行なった範囲:0.000 9 %以上0.417 % 以下 共同実験の結果を解析・検討の上、許容差を規定す る範囲を0.000 8 %以上0.42 %以下としたという記 載です。	原案のまま
三者委員会	2023/4/13	2	事務局	井田	附属書JA	14 c)欄	ed	“追加”及び“変更”の2つを選択している。	“追加”だけとする。	採用		採用

会議	年月日	No	委員		図案 細分箇条 (e.g. 3.1)	細加・表・ 図 (e.g. a) 表1)	コメント タイプ	コメント提出		処置案	担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案		理由及び審議内容		
三者委員会	2023/4/13	4001	事務局 バブコ メ	齊藤		表JB.3	ed	「長方形断面試験片」ですが、通常は正方形は長方形に含まれるので、ここでも正方形断面試験片も含むと解釈して良いでしょうか。（厚さ20mm以上だと、正方形断面になることもあり得ると思います） 附属書DのD.1で「試験片の断面は、円形、正方形又は長方形となり、」とあり、表D.3でも区分で「長方形／正方形断面をもつ試験片」との記述があるため、本規格内では長方形と正方形を分けている（すなわち、正方形は、長方形に含まない）とも受け取れます。 「長方形断面試験片」ですが、通常は正方形は長方形に含まれるので、ここでも正方形断面試験片も含むと解釈して良いでしょうか。（厚さ20mm以上だと、正方形断面になることもあり得ると思います） 附属書DのD.1で「試験片の断面は、円形、正方形又は長方形となり、」とあり、表D.3でも区分で「長方形／正方形断面をもつ試験片」との記述があるため、本規格内では長方形と正方形を分けている（すなわち、正方形は、長方形に含まない）とも受け取れます。	規格内の整合性を考えると、表JB.3も誤解を生じないために表D.3と同様に「長方形／正方形断面試験片」とすべきだと思います。	採用	表JB.3の題名における「長方形断面試験片」を「長方形／正方形断面試験片」とします。 (変更前) 表JB.3－試験片の寸法変化許容差（厚さ6 mm以上の長方形断面試験片） (変更後) 表JB.3－試験片の寸法変化許容差（厚さ6 mm以上の長方形／正方形断面試験片）	採用	